

平成29年10月2日

熊野中学校 生徒・保護者の皆さまへ

熊野町立熊野中学校長 米谷 剛

弾道ミサイル発射に伴うJアラート(全国瞬時警報システム)発動時の対応について

平素から、児童・生徒の安全に対し、ご理解、ご協力いただき、ありがとうございます。

さて、昨今、北朝鮮による度重なる弾道ミサイルの発射により、今後、緊急避難を要する事態の発生も予想されます。弾道ミサイルは短時間で飛来し、落下地点の予測も困難なため、Jアラート発動の際には、速やかに避難することが重要です。

また、避難後、待機している場合には、その後の対応について、保護者の皆様に連絡する必要があります。

そこで、状況に応じて、避難、通常授業や生活への復帰、登校等の連絡について、下記のとおり対応することとしました。このような対応をとることで、児童（生徒）の安全を確保したいと考えておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

記

○ 広島県に「Jアラート」による緊急情報が発動された場合

Jアラート発動時の状況	児童・生徒の対応	その後の対応
登校前	→ 自宅待機	授業の実施等については、安全の確保が確認された後、情報メールや電話等により連絡します。
登下校中	→ 危機回避行動 裏面の「弾道ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動例」を参考に行動	教職員や保護者など大人の指示に従います。
在校中	→ 校内待機	その後の対応については、情報メールや電話等により連絡を行います。状況によっては、児童・生徒の保護者の皆さまにお迎え等をお願いすることもあります。

(別紙)

弾道ミサイルが落下する可能性がある場合にとるべき行動例について

(平成29年4月21日付け消防国第38号、消防運第24号「弾道ミサイル落下時の行動等について」を参考に作成)

1. Jアラートを活用した緊急情報が発信された場合の行動例

○ミサイルが日本に落下する可能性がある場合は、Jアラートを通じて、防災行政無線等で特別なサイレン音とともにメッセージが流れるほか、緊急速報メール等によって緊急情報が発信されるので、メッセージが流れたら、落ち着いて直ちに次の行動をとることが求められる。

【屋外にいる場合の行動例】

- ・近くのできるだけ頑丈な建物や地下などに避難する。
- ・近くに適当な建物がない場合は、物陰に身を隠すか地面に伏せ、頭部を守る。

【屋内にいる場合の行動例】

- ・できるだけ窓から離れ、できれば窓のない部屋へ移動する。

【自動車内にいる場合の行動例】

- ・車は燃料のガソリンなどに引火する恐れがあるため、車を止めて頑丈な建物や地下街などに避難する。周囲に避難できる頑丈な建物や地下街などが無い場合、車から離れて地面に伏せ、頭部を守る。

2. ミサイルが着弾した場合の行動例

○ミサイルが着弾した場合に取るべき行動の例は以下の通り。

- ・近くにミサイルが着弾した場合は、屋外にいる場合は、口と鼻をハンカチで覆いながら、現場から直ちに離れ密閉性の高い屋内の部屋または風上に避難する。

屋内にいる場合は、換気扇を止め、窓を閉め、目張りをして室内を密閉する。

- ・弾頭の種類に応じて被害の様相や対応が大きく異なるため、テレビ・ラジオ・インターネット等を通して、情報収集に努めるとともに、行政からの指示があればそれに従って、落ち着いて行動する。